



2021年4月6日
東日本旅客鉄道株式会社

2021年度のホームドア整備について

- JR東日本では、お客さまと列車との接触や線路への転落を防止する対策として、2032年度末ごろまでに東京圏在来線の主要路線全駅（243駅（線区単位^{※1}では330駅））にホームドアを導入することを目標として整備を進めています。
- 今回、2021年度に整備する箇所についてお知らせします。
- 今後も継続して、より安全な駅ホームの実現に向けた取り組みを推進していきます。

■ 2021年度のホームドア整備について

2020年度末までに山手線、京浜東北・根岸線を中心に線区単位では72駅142番線でホームドアの整備を完了しました。2021年度は、線区単位で21駅42番線に整備を進めていきます。また、2020年2月に京浜東北線蕨駅で初めて導入した「スマートホームドア[®]」^{※2}を引き続き積極的に導入することによりホームドア整備の早期展開を目指します。

また、ホームドア整備にあわせ、ホームと車両の隙間を縮小するためのくし状部材を設置していきます。

※1 線区単位の具体例：有楽町駅の場合、山手線、京浜東北線の2駅となります。

※2 「スマートホームドア[®]」はJR東日本メカトロニクス㈱の登録商標です。

【2021年度にホームドアを整備する駅】

線区	駅名	スマートホームドア [®]
京浜東北線	田端駅	
根岸線	山手駅	
横浜線	長津田駅	○
	橋本駅	○
	新横浜駅	
	大口駅	○
	菊名駅	○
中央・総武線各駅停車	錦糸町駅	
	浅草橋駅	
	西船橋駅	

線区	駅名	スマートホームドア [®]
中央・総武線各駅停車	大久保駅	○
	下総中山駅	○
	水道橋駅	
常磐緩行線	馬橋駅	○
	北松戸駅	○
	南柏駅	○
	柏駅	
	北柏駅	○
	北小金駅	○
南武線	新松戸駅	
	武蔵小杉駅	

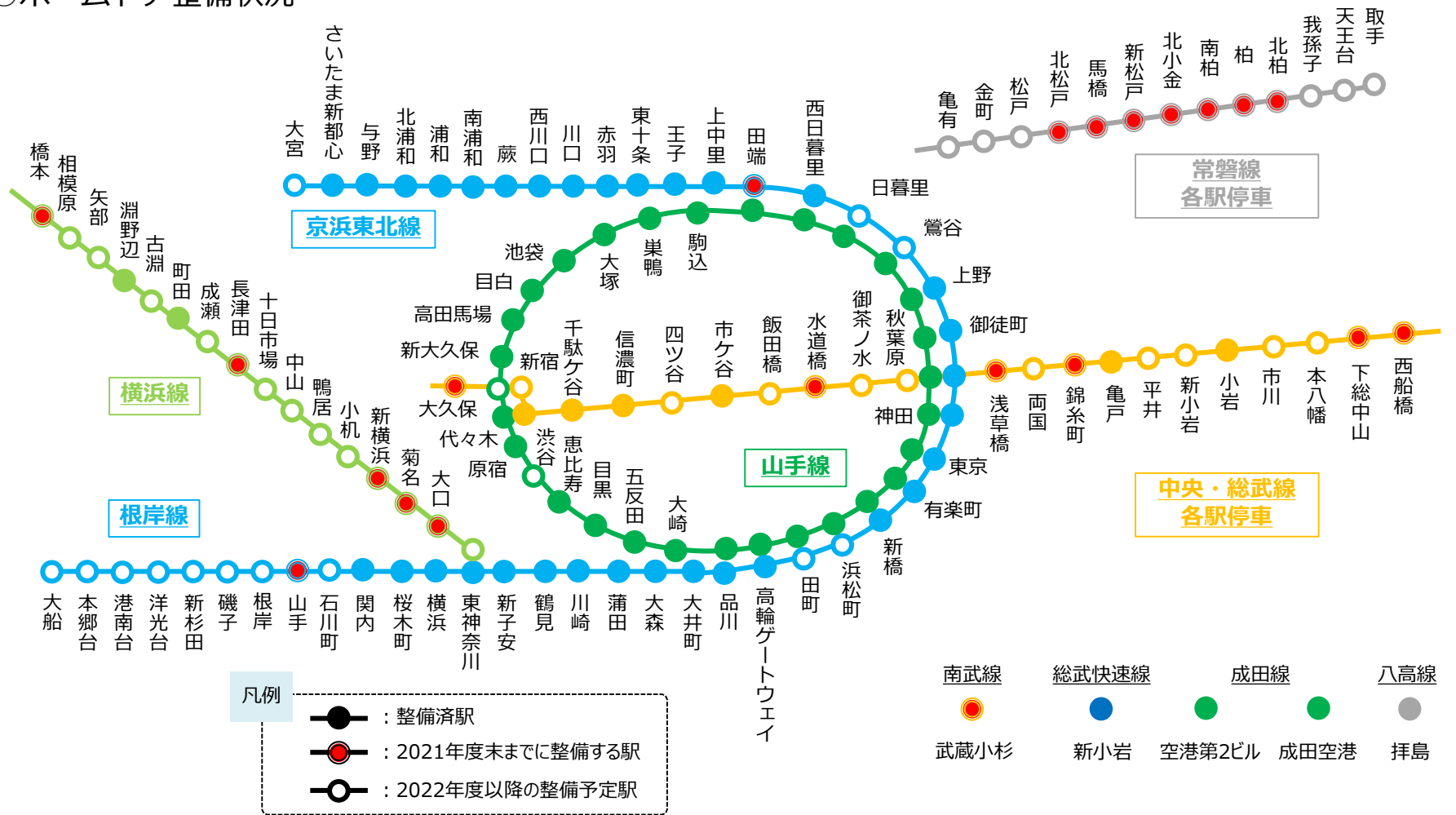
※錦糸町駅は4月3日に使用開始しました。

長津田駅は4月、浅草橋駅は5月に使用開始予定。他駅は準備でき次第、順次使用開始していきます。

詳細な使用開始時期については決まり次第、駅のポスターなどでお知らせします。

■参考

○ホームドア整備状況



○ホームと車両の隙間縮小

- ホームドア整備にあわせてホーム先端（各ホーム2箇所）にくし状部材を設置し、隙間を縮小しています
- くし状部材については、2020年度末現在で山手線、京浜東北線、中央・総武線各駅停車の65駅（線区単位）に設置しており、今後もホームドアの整備にあわせて設置していきます

くし状部材



■ 参考

○スマートホームドア®の展開

形式	スマートホームドア®	従来型のホームドア
外観		
寸法	筐体高さ：1,200mm ドア高さ：1,100mm 下部隙間：370mm 標準開口：2,000mm	筐体高さ：1,300mm ドア高さ：1,200mm 下部隙間：150mm 標準開口：2,000mm
重量	約200kg	約350kg
耐荷重	水平荷重：2,450N/m 垂直荷重：980N/m	
検知機能	居残り検知、戸当たり検知、引き込み検知	

- ・スマートホームドア®は従来型のホームドアに比べ、扉部をフレームで構成したシンプルな構造で内部機構を簡素化し、軽量化を実現しています
- ・ホームドア設置の工期が、従来型に比べ最大40%短縮可能となります

※スマートホームドア®はJR東日本メカトロニクス(株)の登録商標です

■ 参考

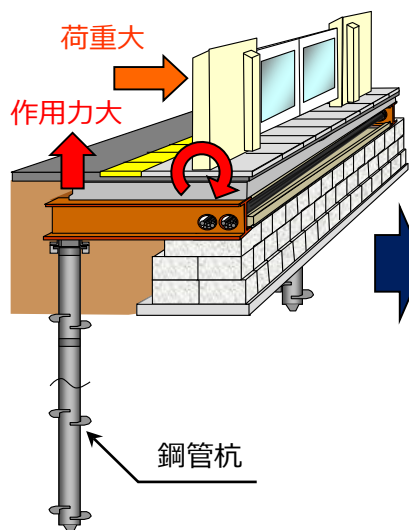
○ 早期整備に向けた取り組み事例

■ ホームドアに対する設計荷重の見直し

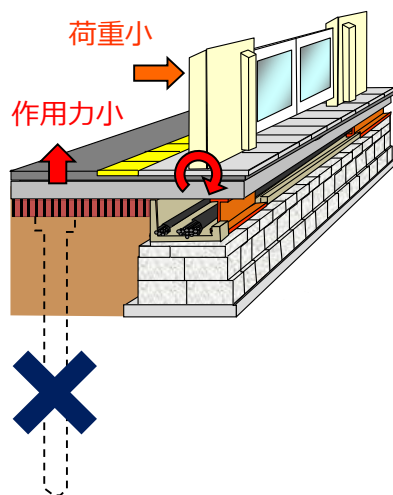
- ホームドアの設計に適用する荷重（風・推力）を適切に見直すことで、ホーム補強工事の簡素化を実現

【従来型のホームドア】補強工事の簡素化イメージ

<従来の荷重>



<見直した荷重>



- 荷重の見直しに伴い作用力が小さくなることで、鋼管杭などによる大規模な補強工事を軽減
- スマートホームドア®の場合も、ホーム補強が必要な範囲の低減により、工事の簡素化を実現

■ 新型ホームドアの開発

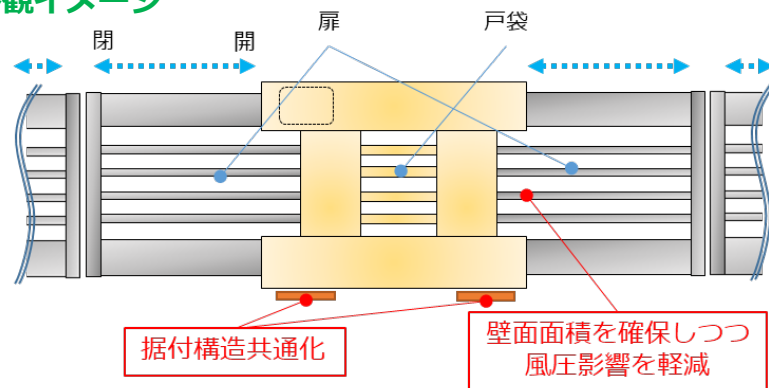
開発コンセプト

- お客様の安全・安心の実現
- 工事期間の短縮・早期使用開始

特徴

- 従来型ホームドアと同程度の壁面面積を確保し、安全・安心を提供
- 扉や戸袋をスリット化して風が抜ける構造とすることで風圧影響を軽減し、ホーム補強を簡素化
- 据付構造を他のホームドアと共通化することで設計・施工を効率化

外観イメージ



- 導入時期未定

■ 参考

○ホームドアに関する総合的な取り組み

■ 東京支社に東京圏ホームドア整備推進室を設置

- ホームドア整備に関する計画・設計・工事管理を一元化
- 工事の品質向上と整備の早期化を積極的に推進

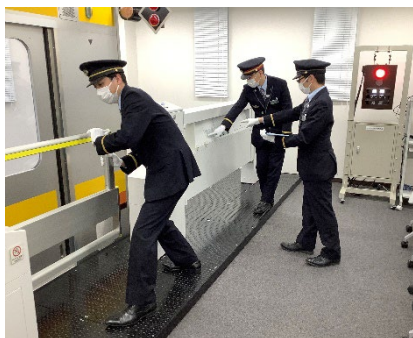
■ オペレーションのレベルアップ

- 訓練装置を各拠点に配置し、駅社員および乗務員の訓練を実施
- 基本的な取り扱いや異常時を想定した訓練を継続することで、ホームドア導入区間の安全安定輸送を確保

訓練の例



駅社員訓練の様子



乗務員訓練の様子

- 拠点16ヶ所に計22台の訓練装置を整備済（2020年度末現在）
- ホームドア施工期間中に取り扱いの習熟が可能になるため、訓練期間を設けずに使用開始可能
- 使用開始後も定期的な訓練を実施

■ グループ一体となった整備推進への取り組み

- 研修センターを活用した施工・メンテナンス人材の育成
- 充実した設備環境を活用した品質向上と技術開発の促進

JR東日本メカトロニクス株式会社 機械設備技術研修センター



2021年4月1日から使用開始